

# 事後評価結果(令和7年度)

担当課:三重県道路建設課  
担当課長名:川北 健司

事業名	地域高規格道路 四日市インターアクセス道路 一般国道477号 四日市湯の山道路		事業区分	一般国道	事業主体	三重県			
起終点	自:四日市市高角町 至:菰野町大字音羽				延長	9.0km			
事業概要	<p>一般国道477号は、三重県四日市市から三重県菰野町、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県を經由し、大阪府池田市に至る延長約230kmの幹線道路であり、北勢地域を南北に走る、国道23号、国道1号、国道1号北勢バイパス、東名阪自動車道、新名神高速道路などの幹線道路を東西に連絡する、通称「湯の山街道」と呼ばれる道路である。周辺には工業団地や観光地があり、物流や観光交通を担うとともに、第1次緊急輸送道路に指定されている重要な路線である。事業区間は、四日市市、菰野町を東西に連絡する交通の要所であり、延長9.0kmのバイパス道路である。</p>								
事業の目的・必要性	<p>本事業は、周辺地域や南北に走る幹線道路とネットワークを構成し、四日市港及び四日市市街地や東名阪自動車道四日市ICと新名神高速道路菰野ICとのアクセス機能の強化による産業活性化、観光地各所への移動時間短縮による観光振興の支援、広域防災拠点へのアクセス機能の強化による緊急時における交通機能の強化、現道から当該路線に交通転換することによる自動車の円滑な走行空間の確保を目的としている。</p>								
事業概要図									
事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H9年度	用地着手	H9年度	供用年	(当初) -/H30	変動	1.0倍
		都市計画決定	H7年度	工事着手	H11年度	(暫定/完成)	(実績) -/H30		
	事業費	計画時	(名目値)	-/390 億円	実績	(名目値)	-/473 億円	変動	1.2倍
		(暫定/完成)	(実質値)	-/385 億円	(暫定/完成)	(実質値)	-/659 億円		
交通量 (当該路線)	計画時			実績			変動	108%	
	(暫定/完成)		-/12,100 台/日	(暫定/完成)		-/13,100 台/日			
旅行速度向上	23.0 km/h → 59.7 km/h		交通事故減少		48件/年 → 13件/年				
	(供用前現道→当該路線) (供用直前年次) 平成27年度		(供用後年次) 令和7年度		(供用前現道→供用後現道) (供用前年次) H12~H30		(供用後年次) R1~R6		
費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C	EIRR	総費用		総便益		基準年		
	2.0	— %	651億円 (事業費: 647億円 維持管理費: 3.5億円 更新費: 0億円)		1,291億円 (走行時間短縮便益: 1,196億円 走行経費減少便益: 43億円 交通事故減少便益: 52億円)		平成30年		
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	EIRR	総費用		総便益		基準年		
	2.0	6.7 %	918億円 (事業費: 912億円 維持管理費: 6.0億円 更新費: 0億円)		1,849億円 (走行時間短縮便益: 1,648億円 走行経費減少便益: 161億円 交通事故減少便益: 40億円)		令和7年		
事業遅延による コスト増	費用増加額		-億円		便益減少額		-億円		

	<p>事業遅延の理由</p> <p>特になし。</p>
	<p>交通量変動の理由</p> <p>計画時に比べ交通需要が微増加したことから、交通量に変化が生じたものと考えられる。</p>
	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <p>①産業・観光振興の支援  ・重要物流道路としての位置付けがあり、周辺の工業団地や四日市港、菰野町方面の観光地へのアクセス向上。  ②緊急時における交通機能の強化  ・第1次緊急輸送道路としての位置付けがあり、東名阪自動車道や新名神高速道路と一体となって広域的な救援・復旧活動に寄与。  ③自動車の円滑な走行空間の確保  ・高角ICから菰野ICへの所要時間が整備前に比べ約8分短縮。  ・主要渋滞箇所である宿野交差点の渋滞緩和に寄与。</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし。</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>特になし。</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし。</p>
<p>事業評価監視委員会の意見</p> <p>対応方針(原案)は妥当である。</p>	
<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <p>・新名神高速道路における新四日市JCT～亀山西JCTが平成31年3月に開通。  ・北勢バイパスにおける市道日永八郷線～一般国道477号(四日市湯の山道路)が令和7年3月に開通。</p>	
<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>投資効果が確認されており、今後の事業評価及び改善措置の必要性はない。</p>	
<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。</p>	
<p>特記事項</p> <p>特になし。</p>	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。